

奪われた故郷

古都（東京都）

私は福島市で生まれ、19才まで福島市で育ちました。19才から現在30才に至るまで東京で暮らしていますが、毎年盆や年末年始には福島市にある実家に帰っています。結婚して子どもができてからは二人の子どもと家族四人で帰省していました。福島には私の両親と、私の祖母もいるので、みんな孫、ひ孫に会うのを楽しみにしてくれていました。

しかし、2011年3月11日、震災により原発事故が起き、全ては叶わなくなりました。

あの事故以来、私は子どもを連れて福島に帰ることができなくなりました。事

（私自身、安全かどうかなんてわかりません。迷いはあります）に子どもを行かせたくないといい夫婦の気持ちもわかりました。東京より線量が高いことは確かですから（私自身、安全かどうかなんてわかりません。迷いはあります）。

いろいろな数字や情報を並べて抗議しました。なんとなくこわいから、子どもたちを福島に帰さないのはくやしかったです。

帰省時期が近づくたびに話し合いを繰り返し、くやしくて何度も泣きました。結局、昨年も今年も子どもたちを夫に預け、私一人で帰省するしかありませんでした。子どもたちは、「一緒に福島に行きたい。おじいちゃんおばあちゃんに会いたいよ」とだだをこね、福島の両親は「1泊2日でも被曝すると思われているのかしら」と残念がりました。

私は被災地に住んでいません。被災者、という粹にも入らないかもしれません。

故当時、まだ3才と1才の乳幼児だったため、夫をはじめ、まわりの人が心配したのです。いろいろな情報が飛び交う中、大丈夫という人と危険だという人がたくさんいました。東京の家族は、状況がわからないから子どもは行かないほうがいいという意見でした。一年半経った今でもそうです。福島の私の両親は、震災直後は帰ってこないようにと言っていました。時間が経ち、線量も徐々に下がりましたが、除染も進んでくるからは、帰ってくる子どもも増えたとし、一日二日で被曝することはないから大丈夫だよ、と言いました。

実際、線量計で家の中を計った数値を聞くと、東京の屋外程度で、一日や二日帰ったところで被曝はしないのだろうと私も思うのです。ただ、原発事故の起きた場所（福島市は原発から約63km離れています）が、福島第一原発という名称により、福島県全体が事故現場のように認識

でも、あの日から福島の放射能汚染のことで何度も傷付き悲しみ、ずっと心から血を流してきました。おばあちゃんや両親に会わせたい。自然豊かな福島で遊ばせたい。本当に美味しい野菜や果物を食べさせたい。当たり前にあると思っていた未来が消えました。

目に見える被災者はもちろん、いろいろなところに苦しんでいる人がいることを知って下さい。そしてどうか差別をしないで下さい。何も悪いことをしていないのですから。

